

はい!

やくも町議会です

第 88 号
令和 8 年 2 月

編集／議会広報広聴常任委員会



今回新たに二十歳を迎えられたみなさん。
輝かしい未来を担う期待の星として頑張ってください。
八雲町議会も応援しています。

二十歳の集いに参加された皆さん。アンケートにご協力いただきありがとうございました
(関連の記事は13ページに掲載)

主な内容

	ページ
○ 8 名の議員が町政を問う（一般質問）	②
○ 補正予算について	⑩
○ 議決・賛否一覧他（定例会・臨時会）	⑪
○ 議会カフェを開催しました	⑫
○ 常任委員会の活動（所管課報告）	⑭
○ 八雲町役場新庁舎等建設における町民説明会について（耳をすまして）	⑯



一般質問

町政を問う！

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。
華やかであるが「力量」が問われる。

※今回8人の議員が質問をしました。質問した議員本人が原稿を書いています。

Q 町民の声をどのように聴く！



おおく ほけんいち 議員
大久保建一

キャッチフレーズも自治基本条例に基づくもの。

これまで職員主体であった住民との交流事業に私も参加する機会を増やし、各世代との情報交換の場や、産業団体等役員会への出席など、要望があれば可能な限り伺いたいと思っている。

問 産業団体の役員会などは、まさしく声の大きい人なのではないか。

町民の声を広く聞くこととは、そういった役職からかけ離れた人の声も聴いていくことではないのか？

町長 私は、いろいろな場で対話するように努め、小さな（少数の）声でもそれが行政にとってプラスで、町民にとっての幸せに繋がるものであれば取り入れるべきと考えている。

問 選挙期間中、萬谷陣営は「既得権益を持っている側」と言われていたと思う。

私は、萬谷町長は選挙の時の敵味方関係なく、公平公正な行政運営に努める、応援した人たちの声だけ聴き、優遇していくことはないと信じている。

この際、自らの声でそれを明言したかどうか。

町長 「私は、敵味方関係なく町民は皆平等であり、町政にとって必要な声を聴いていく。」「既得権益などなく、平等に接していく。」「誤解のないようにしていただきたい。」

要望 力強い明言、ありがとうございます。様々な意見を聞き、その中から自分が最良である答えを決定していく町長の仕事は、重責である。

しかし、その決定には議会承認も必要であり、我々議会も共に責任を背負っていく。

また「良薬は口に苦し。」というが、聞きづらいことほど核心をついている。自身がフレッシュなうちに様々な意見を聞く体制づくりをして欲しい。

Q

福祉・交通・防災・教育施策の

方向性と考え方について？



味がないので、時間をかけて丁寧に検討していただきたい。

町長 利用実態を把握しなければ無駄な経費がかかる。玄関から目的地まで送迎する「ドア・ツー・ドア」のデマンド方式で、病院だけでなくスパーなども目的地に含める方向で試験運行を進めたいと考える。

問 本格導入まで時間がかかる間、現在困っている方へ、タクシー券（年間1万2千円）の増額などの支援はできないか。

町長 試験運行中も既存のタクシー券は交付されるので、ダブルで利用することは可能。

しかし、現段階でタクシー券自体の増額や拡大を行うことは、当面は難しいと考えている。

問 防災と情報伝達（公式LINEの普及と高齢者支援）について伺う。災害発生時は、情報の伝達が最も重要であると考えている。過去の地震では、避難指示を知らなかったという町民も多くいた。

町が導入した「デジタル防災サービス（公式LINE）」は素晴らしい機能だが、スマホを持たない

い、あるいはLINEの存在を知らない高齢者がまだ多いのが実情である。

防災フェスタなどでQRコードを掲示し、アプリの入れ方から指導するようなPRを強化できないか。

町長 現在、公式LINEで様々な行政情報を流しているが、高齢者にはスマホを持っていない方や、持っけていても写真機能など一部しか使っていない方が多いと認識している。

危機管理の観点から、LINEの普及は重要。

今後は、防災会議や研修会の場を通じて、アプリのインストールから指導できる体制を整え、情報を受け取る側（町民）の登録を促していきたいと考える。

Q 部活動の地域展開（中学校部活動の移行と指導者確保）について

問 中学校部活動の「地域展開（地域移行）」について、準備は進んでいるようだが、具体的な検討が停滞しているように思える。

生徒が活動から離れることのないよう、スピード感を持って進めるべきと思うが、考えを伺う。

教育長 国は令和8年度から13年度までを「改革実行期間」と定

めている。

町内4校の校長と意見交換を行い、個人競技での週末交流や、団体競技での合同チーム化などを確認している。

一番心配しているのは、地域への転換によって部活動から離れる生徒が増えること。そうならない体制を整えるためには慎重な検討が必要であり、現場の先生方ともしっかりと交流しなければならぬ。

問 「チーム八雲」として町全体で支える仕組みも模索すること、また子供たちが中学にいる時間は短いので、スピード感を持って、町民全体への啓発や指導者の募集も幅広く行っていたきたい。

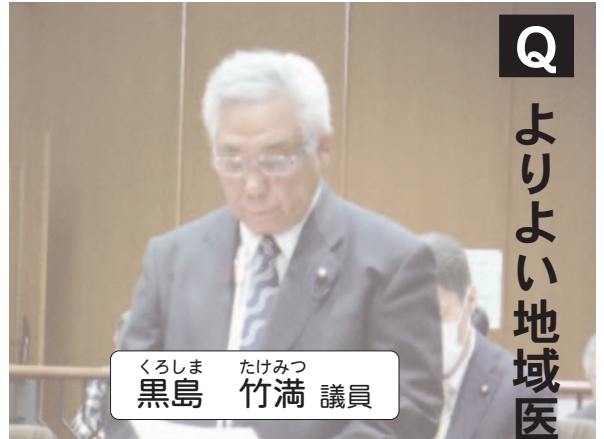
教育長 今までは特定の指導者に声をかけてきたが、今後は幅広く町民から応援してくれる方を募るなどの取り組みも大事だと考えている。

目標を持って自己実現を目指す子供たちを支える仕組みを、しっかりと整えていく。

八雲町LINE公式
アカウントへ登録
しましょう。



Q よりよい地域医療を！



くろしま たけみつ
黒島 竹満 議員

していくかは、大きな課題と考える。

問 八雲町の一番の課題は、八雲総合病院と熊石国保病院の厳しい経営状況と考えるが、安定的な経営について、病院の設置者として今後どのように考えていくのか伺う。

町長 地域の自治体病院は、地域住民の安心安全な医療提供、健康保持、福祉の増進・向上を図り、不採算が明らかであっても公的病院としての機能と役割を担う必要性を有している。

地域生活を守るうえで医療は最も重要なインフラのひとつであり、医療をどう確保し、安定的に継続

地域医療を堅持する方針の下、費用削減、業務の効率化のほか、国が進める地域医療構想の推進、今後の人口減少や高齢化、人口構造の変化などに対応した、医療需要と病床機能ごとの必要量、バランスの取れた医療提供体制の構築、様々な課題はあるものの、具体的には、病床削減を前提とした適正な病床数、病床機能の追求とそれに伴う医療技術者も含めた職員の適正配置、救急医療体制や不採算診療科における診療体制の在り方、管理部門等の外部委託など経営改善に向けたあらゆる事項について検討し、持続可能な医療提供体制を目指すとともに、国及び道に対しては、実効性のある施策を国レベルで図られるよう要望していく。

Q 漁業振興について

問 漁業振興について次の5点

について考え方を伺う。

- ①ホタテ付着物、水産加工残渣等廃棄物処理への財政支援について
- ②ナマコ資源増大事業とコンブ資源拡大におけるコンブ礁アルガリーフの洗浄について、新年度に向けた計画はどうなっているか。
- ③海業における具体的な取り組みに対する支援について
- ④ホタテ養殖、漁船漁業における具体的な経営安定対策について
- ⑤落部漁業協同組合青年部が行った稚ナマコの種苗生産に対し、温度管理ができる冷水機設備など支援できないか。

町長

①ホタテ養殖漁業から排出される付着物や水産加工残渣等の廃棄物処理は、八雲町バイオマス利活用施設において肥料に調製し、処理することとしている。

施設運営を担っているバイオサイクル協同組合と協議を行いながら必要な財政支援を行っていく。

②ナマコ資源増大については、放流事業に対し、費用の一部を補助してきたが、水揚げは減少傾向にあり、効果が薄いことから令和6年度をもって補助は終了した。

コンブ礁は、効果を維持するため洗浄等の管理が必要であることから、試験的な取り組みを始めており、関係機関と協議していきたい。

③落部漁協において、北海道の補助事業を活用し、キッチンカーを整備して、地域水産物の価値、魅力を発信する予定。必要な支援について検討していく。

④ホタテ貝養殖は、漁業経営安定対策資金制度の活用を推進、また、サケ資源増殖のため、渡島管内さけます増殖事業協会への運営負担金の継続など、必要な支援について検討していく。

⑤落部漁協青年部が主体となりナマコ種苗生産に挑戦したことは、大変価値ある取り組みであり、評価している。全滅という結果ではあったが、原因は海水温の上昇が影響した他に外敵による影響、日照調整等の飼育管理なども考えられることから、今後、種苗生産の取り組みを行う際には、関係機関等と情報の共有、指導体制が強化されるよう、町としても対応していく。

Q

高齢者等除雪費助成制度の拡充について！



額になり、高齢者は困っている。町長が掲げる政策で、「高齢者除雪サービスの除雪範囲の拡大」とあるが、まさに町民が望んでいることである。

このようなことから、今後、町の高齢者等除雪費助成制度において、屋根の除排雪も助成適用範囲とし、これに限り、利用対象者条件を緩和できないか。

併せて除雪作業員の確保と増員も必要であると思うが、考えを伺う。

町長

除雪に関し町民が大変ご苦勞していることは承知している。

しかし、一番の課題は実施事業者である。事業者の高齢化や人手不足等により、現在は町内の障がい福祉サービス事業所2か所との契約のみで、除雪希望者へは支援が行き届かない状況である。

重労働で危険が伴う作業であることから事業者を見つけることが難しいが、除雪だけではなく、屋根の雪下ろしも冬期間の重要な政

策の1つだと考える。

除雪実施事業者確保を最優先としたうえで、他の自治体の事例を参考にしながら、より良い支援策を研究していきたい。



問

町長が言うとおり、一番の課題は作業員の確保。屋根の雪下ろしの経験者やノウハウがある

方々をコストをかけず、幅広く募集するためには、現在町も運用している「ライン・ワークス」でも十分活用して運用できると考える。町長が作業員の確保を前向きに考えた場合、どのように募集するか考えを伺う。

町長

募集する想定としてだが、LINEの活用はいろいろな意味で町民に利用して頂きたいため、活用するという観点は非常に良い

質問を終えて

高齢者が、屋根の雪下ろし作業中の転落、死亡事故や屋根からの落雪により窓ガラスが割れるという事例も多くある。

多雪地域だからこそ、除排雪に関して町の支援があれば助かるし、また、除排雪問題が少しでも解決されることこそが住みよい町づくりにもつながっていくので、ぜひ前向きに考えていただきたい。



Q

水産業の未来を築くための取組について！



せきぐち まさひろ
関口 正博 議員

問 八雲町の水産業は、ホタテ養殖事業を中心に、四季を通じて多様な種類の漁業が営まれ、当町における重要な基幹産業として地域経済を支える基盤となってきた。

しかし、漁業を取り巻く環境は、海洋環境の変化、漁獲量の減少、担い手不足、コスト増など多くの課題を抱え、年々その厳しさは増していくものであり、水産業の未来を築くための取組みは、漁業者・自治体が一体となって知恵を絞り行動していくことが重要と考え、次の二点について質問する。

① 落部地域において、昆布養殖事業の取組みが一部の漁業者に

よって進められている。天然昆布の漁獲量は全道各地で大幅に減少しており、あらゆる地域において昆布養殖の取組みが進められているが、八雲町においても昆布養殖事業について、より積極的に推進していくことが必要ではないか。

② 八雲町の鮭の歴史は、明治時代より鮭のふ化事業が行われて以来130年にわたり受け継がれ、守り育てられてきた大切な水産資源であるが、近年は不漁が続ぎ、これからも減少傾向にある。当町における鮭の歴史を将来に繋ぐため、漁獲を自主規制するなどの取組を漁業者との協議を通じ検討できないか。

町長 日本の伝統的な食文化に欠かさない貴重な食材である昆布は北海道が国内生産のおよそ9割を占めており、道内各地で特徴のある多様な昆布が生産されているが、全道の昆布生産量は減少傾向にあり、令和6年の道内の昆布生産量は統計開始以来はじめて1万トンを下回る大幅な減産となっており、当町においても同様に、平成

20年の93トンから令和6年には9トンにまで生産量は大きく減少している。天然昆布資源の減少から昆布の需要は今後ますます高まることが予想されるなかで、八雲町として浅海漁業の新しい振興策として昆布養殖に期待するとともに、現在養殖事業が進められている落部漁協とも十分に協議しながら、普及拡大に向けて必要な支援を検討していきたい。

鮭は重要な水産資源であるとともに食文化や自然をかたどる魚として大切に守り育てられてきたが近年は海洋環境の変化により鮭の漁獲量は大きく減少しており、増殖事業に必要な親魚の確保もままならない状況にある。すでに当管内では、漁業者が自主的に定置網の操業期間を短縮するなど河川に遡上する親魚の確保を優先する取組が進められている。漁業調整に關しては、取組みの効果など専門的学術的な面から根拠を示す必要があり、漁業者や民間増殖団体などが自主的に対応されることが現実的であると考ええる。

問 町長の答弁にあるように、全国の昆布の生産量の9割が北海道産、そのうち4割が養殖、この

さき天然資源は海洋環境の変化、後継者不足等により、さらに減少していくことが予想されており、養殖昆布への依存はますます高くなっていく。落部地域のみならず昆布養殖に興味がある漁業者はいると思うので、漁協・漁業者と協議をしながら八雲町の水産業の将来の柱として成り立つような取組みをお願いしたい。

現在行っている鮭の漁獲の自主規制の取組みについては存じ上げている。しかしその効果がどれほどのものかの検証は行われているのか。取りつくすではなく、将来のために貴重な資源を残すための取組を両漁協と検証・協議していただきたい。

また、水産庁の予算、資源調査評価推進事業においてサケマス関連の予算も見受けられるが、活用可能であるかの調査も行っていたきたい。

町長 これまで漁協・漁業者の意見を聞いてきたが、水産業が八雲にとっていかに重要かという意識は議員と一緒に。漁協と連携し協議を続けて支援できることは研究・検討していく。

Q より良い子育て支援策をみんなで考えよう！



あかい むつみ 議員
赤井 睦美

問 町長は「安心して子育てできるまち」を掲げているが、実現のためには子育て世代・これから子育てする世代との継続的な話し合いが不可欠。更に行政だけで考えるのではなく、町民全体で課題を共有し、仕組みを作る必要がある。

また、八雲町では子育て施策が進んでいる一方、若い女性の人口が少なく、支援が十分に活かしきれない現状にある。女性がここで働きたいと思えるような環境、八雲に行きたいと思える環境を作っ

ていかなければ、子育て支援がどんなに充実しても活かされない。

香川県や茨城県では、地域の“おせっかいおばさん・おじさん”が縁をつなぐ制度がある。行政主導ではなく、地域ぐるみで若者の出会いを応援する仕組みが八雲町にも必要。

農業・漁業体験など、八雲町の魅力を体験できる企画を増やせば、移住や定住につながる可能性もある。

地域おこし協力隊も「欲しい人材を募集する」だけでなく、町として必要な分野や、若者の夢を叶える募集の仕方も重要ではないか。

町長 医療費・給食費無償化の継続を示しつつ、出産祝い金や子ども・子育て会議の運営を工夫し、意見を出しやすい場にしていく。さらに、役場内の子育て中の職員を中心とした横断的な検討体制や、若い女性が八雲町に残り、戻って来なくなる環境作り、出会いの場

の創出にも積極的に取り組んで行く。そうした機会を作る仕組みは行政だけでなく、色々な団体も巻き込んでやれば良いと思っっている。積極的に取り組みたいと考えている。



Q 登下校の安全を守ろう！

問 悪天候の朝の役場前駐車場は、送迎の車で混み合い、登校中の子ども達がいつ事故に遭ってもおかしくない危険な状況になっているので、子ども達の命を守るための工夫、ルールの徹底が必要ではないか。近隣の町内会の皆さんやPTAの係の皆さんの協力を得ながら、町全体で子ども達を守る

仕組み作りが必要ではないか。

教育長 送迎のルールについては、八雲小学校のホームページに常時掲載し、年度初めや送迎が増える本格的な冬シーズン前などに、学校便り等で周知徹底を行っているが、ルールを守ってもらえないケースもあり、対応に苦慮している。今後も駐車可能範囲や車の進入経路をわかりやすく表示して周知を行い、保護者の理解促進をさらに図っていく。今後も関係機関や地域と連携を強化しながら、安全最優先の取り組みを行う。



Q 物価高騰対策について！



よこた きよし 横田喜世志議員

地方交付金でおこめ券の発行などに使えるが、その運用は地方自治体に委ねられている。町はどのような施策を考えているか。

町長 全町民へ商品券を交付する。

物価高騰の影響に対する支援の効果が直接的に及ぶ事業として、全町民へ商品券を交付することを検討している。国の補正予算が成立され、交付限度額が示されたら事業規模等を精査し、早期に対応していく。

問 全町民へ商品券というものは、どの程度の何を考えているのか

町長 最低で1人当たり1万5千円の商品券をお配りできるのか

など、現時点では思っている。ワクワク商品券のイメージを考えて交付金を余さないように、皆さんに還元できれば思っている。

問 現金給付は考えられないのか。

町長 町内の経済循環には一番

効果的だと思うので、現金給付は考えてない。

問 大店舗と地元店舗で使える差や1千円の額面に不評があったが改善はあるか。

町長 1千円券のほうが換金する業者が取り扱い易い。地元企業を育てていく、振興させるという観点から大型店と中小店の使用できる金額を分けて発行したい。

問 町での上乗せは考えているか。

町長 交付金を効率的に活用するため、町単費を上乗せしてこの事業を実施する。

その部分が事務費なのか商品券の上乗せなのかは、総合的に判断する。

Q ウィスキー・サーモン・ワイン事業の今後の推進について

問 10月9日の全員協議会の報告の中で、前町長は、現在、民設民営で進められている特定政策のウィスキー事業と同様に、サーモン種苗生産施設整備事業について、公設民営方針を民設民営にシフト

し、展開していく方向にする。また、公設で進めるとしているワイン事業も将来に向けて民設民営も視野に入れながら進める説明があった。

新町長も後援会だよりに町の現計画主要事業については、民設民営を基本とすることが掲載されている。町長就任後の基本方針についての現在の考え方を伺う。

町長 ウィスキー蒸留場誘致事業は、出資者の一員として参加し誘致企業と連携して、目的とする北海道新幹線新八雲駅開業を見据えた観光客の誘致、地域ブランド向上に繋げていく。

サーモン種苗生産施設整備事業は、国の地方創生交付金を活用し、民設民営で整備することとする。早期完成に向けて尽力していく。八雲町産ぶどうを原料としたワイン醸造とワインナリー設立の今後の予定は、来年3月で任期満了となる協力隊員が個人事業主として起業し、町の委託を受け栽培の継続・拡大とワイン販売を行いながら、ワインナリー開設に向けて事業展開する予定。

問 昨年、プレミアム商品券が発行される事が諮られたとき、消費拡大対策であって物価高騰対策ではないと指摘した。現在も物価は上がり続けている。最低賃金が引き上げられたが、物価上昇に見合うものではない。11月29日の道新に補正予算決定と載っていた。生活の安全保障・物価高への対応に8兆9千41億円の計上で、このうち、子育て応援手当に3千677億円、冬場の電気・ガス代支援に5千296億円などを充て、地方交付金を2兆円確保した内容となっている。

Q 産み育てられる町として、 選ばれる環境を！



みさわ きみお 議員

用難の改善や若者のＵターン、そして移住・定住につながると考えるが、このことについて、町長の考えを資した。

町長 「祝い金」は入口。仕事、暮らし、人づくりを一体で進める。八雲町の出生数が大きく減っていることに強い危機感がある。

出産祝い金は、出産後にお金がかかる、物価高で家計が苦しいという現実を少しでも支えるためのもの。

ただし、祝い金だけでなく、仕事・医療・教育・住まいなどの課題解決を含めたまちづくりも共にという考えは議員と同じ。

役場の中から若手や女性職員を（まちづくりリーダーに）育てることについても実施する覚悟はあるとの答弁を受けた。

質問の趣旨 出産祝い金を出すだけでは、子どもは増えない。大事なのは出産・子育てと仕事を両立できる環境づくりじゃないか？女性が「子どもを産んだら不利になる」と、感じない社会にすること。

特に役場が率先して若い職員（特に女性）が意見を言いやすい職場づくりをするべきで、男性にも（女性並みの）育児休暇を取りやすい職場環境を更に進めるべきだ。そうした『役場の取り組みや成果』を全町的に広げて、八雲町のイメージアップを図ることが採

Q 稲作主体地域に、 “核となる法人”を創ろう！

質問の趣旨 稲作主体地域では、担い手の高齢化、労働力不足が急速に進んでいる。このままでは、耕作放棄される農地が増えてしまう。そこで、地域で農地をまとめ

て管理し、地域農業を守る“核となる法人”を『地域まるっと中間管理方式』でつくり、その“法人づくり”を町が中心になって進めてほしいと提案した。

そして、過去にうまくいかなかった例を気にしすぎて、何もしないのが一番危険だ、と強く訴えた。

町長 「地域まるっと中間管理方式」も選択肢の一つと考える。

農業は、自分の専門分野ではなく、慎重に考えたい。過去の法人化では、行政が前に出すぎて失敗した反省がある。法人化が本当に地域に合うのか、よく話し合う必要がある。前向きに検討するという姿勢が伺えた。

YouTubeで一般質問を視聴することができます。

視聴のポイントは、次のとおりです。

子育てや仕事、農業の問題は「誰か一部の人の話」ではなく、町全体の将来の話であり、役場がどう動くかで若者が戻ってくるか、農地が守られるかが大きく変わるということを示したかった質問です。



1日目



2日目

右の二次元コードから第4回定例会
一般質問の中継を見ることができます

第4回定例会 令和7年度一般会計補正予算

4,441万5千円を追加
補正後の総額を159億4,107万3千円

第4回定例会は、12月11日～16日の会期で開催されました。
補正予算、条例制定及び条例改正、専決処分など追加議案を含め、
議案13件、発議4件、発委1件、承認1件を審議し、いずれも可決されました。

補正の主な内容

- 観光開発費 382万7,000円
- 小・中・高校生全道・全国大会選手派遣助成金 121万4,000円
- 給食賄材料費 287万4,000円
- テレビ受信料 294万9,000円

火災発生!!

<ごみ分別・有害ごみの排出方法の再確認を>

八雲町リサイクルセンターで令和7年8月15日に火災が発生した件で、破碎、搬送、集じん設備に被害を受けました。原因の特定はされていないが、出火原因となりうるごみ混入の可能性があります。そのため現在、施設の一部が使用できず、近隣町に協力いただいてごみ処理を行っている状況です。

また、本定例会にて八雲町リサイクルセンター破碎処理設備復旧改修工事の請負契約の締結について可決。（費用は5億2千800万円）この他に改修や運搬などに多額の費用が生じています。

今後このような事態が起こらないように今一度、ごみの分別や有害ごみの適正な排出への皆様のご協力をお願いします。

定例会・臨時会議件一覧

令和 7 年第 4 回定例会（令和 7 年12月11日～16日）			
議案第 1 号	八雲町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例	議案第12号	令和 7 年度八雲町熊石地域簡易水道事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 2 号	八雲町長等の給与及び旅費に関する条例及び八雲町教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例	議案第13号	令和 7 年度八雲町一般会計補正予算（第 8 号）
議案第 3 号	八雲町一般職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	承認第 1 号	専決処分の承認を求めることについて
議案第 4 号	八雲町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例	発委第 1 号	八雲町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
議案第 5 号	八雲町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例	発議第 1 号	安心して必要な介護を受けられるように制度の改善を求める意見書
議案第 6 号	八雲町公共下水道条例及び八雲町給水条例の一部を改正する条例	発議第 2 号	最高裁判決に基づき生活保護利用者に対する速やかな被害回復措置を求める意見書
議案第 7 号	八雲町火災予防条例の一部を改正する条例	発議第 3 号	クマ対策推進のために国の責任で予算措置の拡充などを求める意見書
議案第 8 号	工事請負契約の締結について	発議第 4 号	衆議院の定数削減に関する意見書
議案第 9 号	令和 7 年度八雲町一般会計補正予算（第 7 号）	常任委員の追加選任	
議案第10号	令和 7 年度八雲町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 2 号）	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出について	
議案第11号	令和 7 年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第 2 号）		
令和 8 年第 1 回臨時会（令和 8 年 1 月19日）			
議案第 1 号	令和 7 年度八雲町一般会計補正予算（第 9 号）		

異議あり！

第4回定例会 賛否一覧（反対のあった議案を掲載）

異議あり！

			賛成 ○ 反対 ×														
議 件 名		採決結果	赤井睦美	水野博美	横田喜世志	安藤辰行	斎藤実	黒島竹満	牧野仁	関口正博	小西雄一	三澤公雄	倉地清子	寺田広樹	宮本雅晴	大久保建一	
発議第4号	衆議院の定数削減に関する意見書	原案可決	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○		

※大久保建一議長は、賛否同数の場合にその可否を決定します。

議会のうごき

《12月》	《1月》
4日 全員協議会	11日 議会カフェ in 二十歳の集い
7日 議会カフェ in 全町1日健康の集い	15日 議会運営委員会 総務経済常任委員会 文教厚生常任委員会 広報広聴常任委員会
8日 議会運営委員会	19日 第1回臨時会 全員協議会
11日～16日 第4回定例会	
11日 会派代表者会議	
15日 総務経済常任委員会 文教厚生常任委員会	
16日 議会運営委員会 広報広聴常任委員会	



議会カフェ

2025年12月7日(日)

in 全町1日健康の集い!



Q. 八雲町の好きなところ、良いと思うところは？

- ・生活に必要なものは全部町内でそろえられるので、便利。
- ・小学生の孫が八雲高校へ行きたいと言っているので、是非、存続させてほしい。
- ・八雲の自然は素晴らしい！山に行かなくても色々な野鳥や季節の草花がたくさん見られ、心癒されます！
- ・冬の除雪が素晴らしい！近隣の町に比べても、八雲はきれいになっていると思う。
- ・人柄がよく、優しい人が多い。

- ・議会広報が写真が多くとても読みやすくわかりやすい
- ・八雲町には友達がいるのでよく出かけて楽しい。
- ・駅も病院も近くにあってありがたい。
- ・老人会で友達も多く、良い人が多いので幸せ。
- ・物価は高いけど、お互いに分け合ってそれなりに暮らして行ける。
- ・一人暮らしでも誘ってくれる人がいて幸せ。
- ・月1回の老人クラブが楽しみ。特に秋の旅行。
- ・今日は血圧を測ってもらったり、自分の健康について相談もできるので嬉しい。



Q. 今困っていること、改善してほしいところは？

- ・今自分でもらっている年金で施設に入ることができるのか情報が欲しい、元気な時に説明会をしてほしい。
- ・子育て世代が住み良いと実感されるまちづくりを！
- ・常勤医を！ 町民プールの積極活用と通年利用化を！
- ・空家解体後の草取りは誰の責任になるのか。草ぼうぼうで、毛虫やハチが自分の家にまで入ってくる。最近は、キツネやテンなどの動物も見受けられる。
- ・私は独居の障がい者。ルームシェアで『終の住み家』として使える物件を町が準備してほしい。
- ・「転勤族が多い町」なのに…転勤家族にとって『まちの情報入手』が難しいまま放って置かれている。
- ・今後、買い物や雪かきが大変になったらどこに相談すると良いのか、とても不安。
- ・除雪車に置いて行かれた雪で玄関が開かない事がある。



議会カフェ

2026年1月11日（日）

in 20歳の集い

Q1. 八雲町の「もっとこうなったらイイな」と思うところは？

- ・漁業等の特産の物をもっと売り出しても良い。八雲には良いものがたくさんあると思う。
- ・バスなどの交通がもっと発展したらいいなと思う。熊石八雲間が不便。
- ・子ども達が遊ぶ場所や、学生や若い人、友達同士で集まれる場所やイベントがもっとあると良い。
- ・高齢者や障がいのある方が、もっと過ごしやすい環境や道になったら良い。
- ・何もなさすぎるので、遠くから来たくなくらい魅力的な場所ができれば良い。
- ・今で十分。
- ・もっと活性化してほしい。服を買えるところが増えてほしい。お店を増やす。



Q2. 若い人が八雲町に「戻りたい」「残りたい」と思えるためには？

- ・若者向けの施設、娯楽施設、色々な店、写真を撮れるところを増やす。
- ・働く場所を増やす。（多数意見）
- ・大学を建てる。

Q3. 八雲町について、今思っていることを自由に！

- ・住みやすいが、働くところが限られている。
- ・熊石は海鮮がおいしい。泳ぐのが好き。海が好き。
- ・自然がいっぱいだが、まちへ行くのが大変。山車行列。
- ・プール横のストリートバスケット場の網を高くしてほしい。ボールが道路に出てしまうので。
- ・ちょっと地味なので、イメージアップしてほしい。
- ・住みやすくて落ち着く。生まれたところだから大好き。
- ・生活も遊びもパツとしない。実家があるから帰ってきているくらいで、滞在したいとは思わない。



常任委員会 の活動

令和7年11月から令和8年1月の
各常任委員会の活動です。

文教厚生

【学校給食センターより】 令和8年度給食費の改定について

学校給食センターでは、平成30年度から学校給食費無償化を実施しており、子育て世帯の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる環境の充実を継続するため、子育て世帯支援事業として取組んできた。

しかし昨今の急激な物価高騰により、現行予算内では今後も児童生徒に必要なエネルギー量と栄養価を満たす給食を提供することが困難な状況にある。

改定前 (単位:円)			
区分	1食	月額	年額
小学生	260	4,160	49,920
中学生	310	4,960	59,520



改定後 (単位:円)			
区分	1食	月額	年額
小学生	310	4,960	59,520
中学生	370	5,920	71,040

無償化のため利用者負担はありません

(環境水道課より)
八雲町給水条例及び八雲町公共下水道条例の一部を改正する条例について

給水装置工事について、現行条例では、災害その他非常の場合にあっても、八雲町が指定した指定給水装置工事事業者、指定排水設備事業者でなければ、給水装置工事、排水設備工事の施行は認められていない。

しかし、災害時に指定工事業業者自身が被災した場合や宅内配管、

排水設備の破損が多数発生した場合、復旧が遅れ、家庭で水が使用できない、水が流れないなどの状況が長期化してしまう。

このため、災害その他非常の場合においては、宅内配管、排水設備の早期復旧を目的として、他の市町村長が指定した指定工事業業者であっても、施行する必要があると町長が認める場合は、他の市町村長が指定した指定工事業業者による工事の施行を可能とするものである。

なお、ここでのいう「災害」とは、地震・津波・風水害・火災などの自然現象によるもの。「その他非常の場合」とは、災害等を問わず大規模事故などで他の自治体の応援が必要な場合としている。

【八雲総合病院より】 栄養管理室調理部門の外部委託について

当院における入院時の食事提供については、これまで直営を維持し、きめ細かなサービスを提供してきたが、数年前より調理員の確保が困難を極めており、さらには

治療のサポート・健康管理等、食事の面から医療に深く関わる管理栄養士の確保においても非常に苦慮している状況にある。

入院療養における食事提供は必要不可欠であり、安心安全かつ安定した業務を遂行するため、調理部門の外部委託を進めようとするものである。

また、院内保育所給食業務についても同様とする。

委託業者

東京都港区新橋5丁目32番7号
富士産業株式会社

委託金額

○八雲総合病院
1億4千6百88万円(税抜)

○院内保育施設

1千62万2千円(税抜)

委託期間

令和8年4月1日～令和11年3月31日

食材購入等町内業者への影響

生鮮食料品を中心とする給食材料は、これまで同様に可能な限り町内業者からの購入を継続する。

総務経済

●鉛川レクリエーションセンター施設老朽化対策事業の完了等について（商工観光労政課）

概要

譲渡を条件に民間事業者へ長期貸付を行なっている鉛川レクリエーションセンターは、昭和60年に建設してから40年が経過しており、老朽化が著しい状態にある。

譲渡にあたっては、老朽化対策を実施することとし、修繕箇所を特定し、必要な休業に対しての休業補償も支給することとした。

【全体事業費（予定）】

2千7百68万1千764円

（内訳）

・建物関係の修繕

1千百38万2千800円

・設備関係の修繕

1千6万1千700円

・休業補償

6百23万7千264円

当初6月の契約時には修繕工事費を1千6百42万800円で契約したが、見積もり以上の（着工後、新たな修繕箇所が見つかり）老朽化に2度対応した。一方、休業補償費は最大61日間を見積っていたが、迅速な工事予算の見直しで48日間に圧縮することが出来た。

●鉛川浄水設備 濁度計の修繕について（商工観光労政課）

概要

本年6月21日の大雨に始まり、急激な大雨が夏時期に続いたことで、濁度計の正常な働きがでなくなかった。本機が正常に働かなければ、施設へ供給する水に濁水が流入する危険があることから濁度計の部品交換による修繕を図る。【事業費】66万5千円

●U・ーターン就職奨励金制度の見直しについて（商工観光労政課）

理由

奨励金交付後の早期離職者が一定数いることから、制度の継続性を考慮し、且つ産業の担い手確保と移住定住の促進という目的

に沿った効果的な交付方法にした。

【支給時期】

就職して1年以内↓就職してから1年経過後の申請（申請可能から1年以内）

【金額】1年目現金30万円、2年目商品券20万円分↓1年経過後、現金30万円

（令和7年度の申請者については、現行の制度を適用し20万円分の商品券は支給予定）

●令和7年7月30日に発生した津波警報に係る「自主点検」レポートについて（危機対策課）

（誌面に限りがあるので載せられませんが、かなり詳細なレポートです。）

概要

今回の津波対応について、避難所運営等に関わった職員へのアンケートや管理職員による振り返り、更に町民アンケート等を実施した。これをもって『現在の八雲町内の危機対策』を検証し、今後の災害対応体制の見直しやマニュアルの改訂、職員研修の充実、地域との連携強化に活用する。

（年明け早々には「マニュアル改訂作業」に入れるスケジュールで動く。）

【委員からの意見】

○自分たちも含めて、職員も管理職も、そして町民全てにおいて『経験不足』に尽きる。

○今回を「いい経験だった」で済ます為にも、避難訓練を繰り返すしかないのではないか。

○町民から役場へ「…どうしたらいい?」「…何をしたらいい?」等の問い合わせが殺到した、という事を見ても配布したハザードマップが活用されていないことが判る。

○せめて（自分や家族用の）数回分の飲食物や処方薬、ペットの餌等は持参して『避難出来る備え』は徹底して貰わなきゃ!避難所スタッフに文句を言うのは言語道断ではないか。



耳をすまして

今回は、八雲町役場新庁舎等建設における町民説明会に参加された皆様からさまざまなご意見をいただきました。（1月23日(金) はぴあ八雲にて）

- 娘から「今、八雲がニュースに出ているから見て！」と電話が来て、テレビをつけると庁舎の事が報道されていて、こんなことになっているとは知らなかった。1億9,000万円もったいないですね。なぜ、こんなことになったのですか？娘も「八雲出身と言いにくなる」と言っていました。これ以上は無駄使いをしないでほしいです。（50代女性）
- 初めて新庁舎の予想図を見た時に、なんだこれ？と思った。庁舎はもちろんだけど、前町長の言動にいろいろ不満があったので、今日このことをきっかけに、不満を聞いてもらえて良かった。大変だと思うけど、頑張ってください。（20代男性）
- 現町長の英断は正しいと思う。是非、再生可能エネルギーを取り入れて、日々のコストを下げてほしい。災害時に停電になっても何とか対応が可能になると思う。（50代男性）
- 私が知っているある2人の設計士は世界的に有名だけど、デザイン重視で機能性に欠けるという声がたくさん出ている。初めから無理があったと思います。（20代男性）
- 今の新庁舎設計は「役場が決めて押し付けられた」という意識だ。知らないうちに出来て、私たちの意見は聞いてもらえる…と感じたことがない。
- 新庁舎設計にはイイところも有ったはずなのに…今は、全否定されてそんな事を言う雰囲気じゃありませんね。この流れも怖いですが、別な失敗をしなければイイけど。
- 1億9,000万円が無駄になるけど「1円でも安く…機能性の高いコンパクトな設計」でやり直したい…色々矛盾を含んだ発言なのに、拍手喝采だったね。議会は今度はしっかりしてよ！「時間が無い」を口実にアレよあれよと決めちゃうんじゃない…二の舞だよ。



- シンプルでお金のかからない町長の案に賛成。庁舎の玄関のところは、少し広くして、椅子やテーブルを置いてバスを待ったり、休憩できたりする場所にしてほしい。（70代男性）
- 建物は、シンプルで良い。この先お金がかからないこと、仕事の効率化を考えれば、複合施設にするのが良い。（20代男性）



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。

製作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

編集後記

2025年12月14日、青森県東方沖で大きな地震がありました。最大震度6強で、後から続く地震にも注意が必要な状況でした。また、カムチャツカ半島付近での地震では津波警報が出され、八雲町でも避難場所が開かれ、そのとき、役場には「どこに避難すればよいのか」といったような問い合わせが多く寄せられました。高台避難したが、トイレに困り、自宅に戻った方も。戻るのは危険なんです。また、避難所では水や食料は役場からもらえ、こう思っていた方もいて、こうした様子から、日ごろの備えの大切さを改めて感じました。

津波は、いつか起こるかもしれないものとして考え、平時から備えておくことが大切です。災害が起きたときに役場の職員だけが対応できることは難しいので、現状です。水や食料などが、対応する範囲で少しずつ備えておくことが、安心につながります。

八雲町の公式LINEでは、防災に役立つ情報を見ることが出来ます。平時のうちに一度、確認してみてください。

家庭だけでなく、会社やお店など職場でも話し合いや訓練を重ね、いざというときに落ち着いて行動できる町にしていきたいと思っています。

議会広報広聴常任委員会
副委員長 倉地清子